

手話言語の形態論

形態論から見た手話単語の構造

竹村 茂

日本大学大学院総合社会情報研究科

Morphology of Sign

Structure of Sign Word Seen from Morphology

Takemura Sigeru

Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies

“Morphology of Sign,” considered how morphemes united and how compound words were made. It has been understood that successive uniting is done with one hand and simultaneous uniting is done with both hands having a strange appearance.

1. はじめに

現在の日本の手話の本は、手話単語¹の日本語の意味（正確には手話単語につけられている日本語ラベル²）に基づいて手話単語の形を調べるようになっている。手話単語の日本語ラベルに基づいて、手話単語を“あいうえお順”に並べたり、また学習しやすいように「生活に関する手話」「学校・社会に関する手話」「恋愛・人生に関する手話」など、共通する主題でまとめたりしている。どちらのタイプの本も手話単語の日本語ラベルの索引がついている。

この方式では、手話の学習には片手落ちである。日本語ラベルの索引から手話の形を知ることができても、手話を形から探して、その意味を知ることができない。例えば、自分のよく知らない手話を見て「あの手話の意味はなんだろう」というとき、手話をよく知っている人に聞くしか方法がない。自分で本を見て調べようとすると、従来の手話の本では、目的の手話を見つけるまで、全部のページを探さなければならない。このような今までの手話の本は「日本語・手話辞典」で、英語の辞典でいえば日本語から英語を探す和英辞典である。

英語の学習には、英和辞典と和英辞典が必須である。手話の学習にも、英語から日本語の意味を知る英和辞典と同じように、手話の形からの日本語の意

味を知る「手話・日本語辞典」が必要である。いまままでこの英和辞典に相当する「手話・日本語辞典」がなかった。

手話の形を記号化して、その記号に基づいて手話を探す辞典³がアメリカでは発行されている。手話の記号化は、いろいろな案が出され議論されているが、まだ一般的ではない。また、そのような記号を学習するには、新たに文字を覚えるのと同じような努力が必要で、手話を学習するために、さらに手話の記号まで覚えなければならないという大きな負担を強いられる。筆者は、1999年に『手話・日本語大辞典』⁴を刊行して、この問題に一応の回答を与えた。

言語における音声と文字の関わりについては、様々の考え方がある。文字表記を持たない言語も多い。聴覚障害者の間で使われている手話では、文字表記のさまざまな試みがなされているが、まだ確定された文字表記はない。手話の本では、一般にイラストが用いられている。手話単語とイラストとの対応関係は、中国語の単語と表意文字である漢字との対応関係を想起させる。

表音文字⁵を持つ言語の辞書では、例えば語彙をアルファベット順に並べるなどの方法で語彙が配列される。国語辞書も表音文字である五十音で配列されている。

一方、表意文字である漢字を集積した漢和辞典は、偏旁や字画を手がかりに漢字を検索する。

手話の辞書では、手の形や位置、動き、片手で表す手話か両手で表す手話か、などが手がかりになる。『手話・日本語大辞典』では、検索する手話は、片手で表すのか、両手で表すのか、両手で表すなら、両手は同じ形か、違う形か、手の形はどうか、という手順を踏むことによって、指文字プラスアルファ程度の知識で、約3,000語の手話単語の検索を可能にした。3,000語の手話語彙は、日本語語彙では約20,000語に対応する。

手話の文字表記が確定されていない状況で、手話をその語彙構造に従って配列する「手話・日本語辞典」を作製したことは無謀に見えるが、かつて言語学が音声から音韻を抽出したように、手話をその形態に応じて秩序だてることによって、手話の語彙構造を抽出できると考える。「手話・日本語辞典」は、個々の手話語彙に関する言語的知識（コーパス）を集積して、分析することによって生み出すべきものである。

『手話・日本語大辞典』は、手話単語の検索を目的に作製されていて、語彙の分析は行っていない。その点で、検索法も未整理の点が残っている。本稿では、『手話・日本語大辞典』の3,000語の手話語彙を分析し、手話単語の形態素を考察した。

現在日本で使われている手話には、日本手話^{vi}、日本語対应手話^{vii}、中間型手話^{viii}がある。本研究が対象としたのは、中間型手話と日本手話で使われる手話語彙である。

2. 形態素

言語の記号体系としての特徴は、分節構造を持っているということである。A・マルティネは、それを「二重分節論」^{ix}で体系化している。

ことばの第一次分節とは、言表を表意的な継起する最小の単位、すなわち記号素で組み立てる分節である。(中略)第二次分節とは、その表意単位自体を、表意的でなく、弁別的な継起する最小の単位、すなわち音素をもとにして組み

立てる分節である。

「手話を勉強する」という文は、「手話」「を」「勉強する」という3個の単語に第一次分節され、さらに先に示したように / Syu,w,a,o,b,e,n,kyo,s,u,r,u / と12個の音素に第二次分節される。

第一次分節によって抽出された分節の性格をそれぞれの言語について考察するのが「形態論」である。第一次分節によって抽出された分節を形態素という。

形態素とは、音声と意味が結合してできている言語記号のうちで最も小さい単位、あるいは、それ以上小さく分割できない文法形式、と定義することができましよう。^x

形態素のうち、単独で用いることのできるものを「自由形態素」(または「自立的形態素」)、単独で用いられないものを「拘束形態素」(または「非自立的形態素」という。形態素は{ }で表記する。^{xi}

自由形態素はそのままで「語」となるか、自由形態素どうしが結合して複合語を作る。

1. 自由形態素 + 自由形態素

拘束形態素は、次のいずれかのパターンで語をつくる。

2. 拘束形態素 + 自由形態素

3. 自由形態素 + 拘束形態素

4. 拘束形態素 + 拘束形態素

音声言語の場合、拘束形態素 + 自由形態素 + 拘束形態素のようなパターン^{xii}も見られるが、手話言語では、このパターンを筆者はまだ探し出していない。

手話単語の複合語の例を見てみよう。手話の辞典では、手話を表す文字が確定していないので、手話をイラストで表す。そのため、文字のある言語に比べると、一語の説明に費やすスペースが非常に大きい^{xiii}。『手話・日本語大辞典』では、スペースの節約のために、複合語は原則として索引で示した。しかし、組み合わせによってできる新しい単語の意味が、元の単語から推測しにくい場合は、一語として辞典に採録している。

3. 由形態素どうしの結合

自由形態素どうしが結合して複合語を作る例である。手話言語の場合も、音声言語の場合と同じく、複合語はたくさん作られている。まず、『手話・日本語大辞典』に採録した一語感の強い複合語を例にあげた。


音声言語の複合語、例えば「自由形態素」は、「自

由」「形態」「素」と継時的に発音される3形態素の結合である。「表1」の「片手の手話」の自由形態素の結合も、片手の連続した動きの結合した継時的なものである。

「片手の手話」は継時的な結合で複合語を作る。

以下、イラストの説明文中、【ac】は手話単語の動作、【ma】は手話単語を覚えるコツ、【us】はその手話単語の使い方の説明である。

表1 自由形態素 + 自由形態素 = 複合語 (継時的な結合)

見出し語	手形	片手位置	イラスト	説明
10085 一対一	ヒ型 ヒ型	標準		【ac】まず人差指を立てて手のひら側を前に向けて示し、つぎにもう一方の人差指を立てて、外側から手のひら側で向かい合わせる。
「1」と「会う」の複合語である。				
10095 往復	ヒ型 ヒ型 甲	標準	 横から見たイラスト	【ac】人差指を立てて前に出し、手前に引く。 【ma】往復するようすを表す。
「行く」と「来る」の複合語である。				
10116 質問(する)(B) 聞く(質問)(B) 尋ねる(B)	ヒ型 ヒ型 横	耳		【ac】人差指の先を耳にあて、その手を指文字「ホ」に変えながら前へ出す。 イラストは横から見たもの
「聞く」と「尋ねる」の複合語である。				
10133 唾をつける	ヒ型 ヒ型 甲	口		【ac】人差指の先を口につけ、つぎに手のひらを前にして人差指を立てて示し、その指先を前に指し示すように出す。 【ma】唾をつけるようすを表す。
「唾」と「つける」の複合語である。「つける」は極めて抽象性の高いである。この形の「つける」は拘束形態素とみなす余地もある。				
10137 注文(A)	ヒ型 ヒ型 横	口		【ac】人差指の先を口の脇にあて、その手を前へ出しながら、他の指も立てる。
「言う」と「頼む」の組み合わせで「注文」を表す。				





「両手同形の手話」は、両手の組み合わせや動きによって、一つの意味を表すことが多い。両手が同じ形なので、両手の組み合わせで複合語を作るということは原理的にあり得ない。「両手同形の手話」で

両手の組み合わせで複合語を作る例があれば、それはむしろ「両手異形の手話」に分類されるべきものであろう。

「両手異形の手話」は、利き手と非利き手がそれ

ぞれ別個の意味を担っていて、それが同時に提示されることによって、複合語になる例が多い。「表 2」にその例を示す。「両手異形の手話」は同時的な結合で複合語を作る。

表 2 自由形態素 + 自由形態素 = 複合語 (同時的な結合)

見出し語	手形	他の手の形	イラスト	説明
30034 お寺(A) 仏教(A) 木魚(A) 法事(A) お経(A)	ソ型	祈る形		【ac】片手でおがむ形をして、他の手の人差指を出して、上下にふる。 【ma】「木魚」をたたくしぐさを表す。 【us】「お寺」の場合は、この手話の後に「家」の手話を付け加えることが多い。
利き手が「木魚をたたくしぐさ」、非利き手が「祈るしぐさ」。				
30595 倉(B) 倉庫	C型	屋根型		【ac】手のひらを斜め下へ向けて示し、その下に、指先を前に向けた指文字「C」を入れる。 【ma】倉の中に物を入れるようすを表す。
利き手が「品」の手話、非利き手が「家」の手話の半分。				
30644 長女	イ型	一型		【ac】人差指を横にして示し、その指先に他の手の小指の先を付け、斜め下(外側)へおろす。 【ma】一番目の娘という意味を表す。 【us】人差指と中指を示して、中指の先から示せば次女になる。
利き手は「生まれる」の動きを「女」の手で表している。非利き手は「一番目」を表す。				
30664 かかあ天下	イ型	夕型		【ac】指文字「イ」を示して立てた腕の肘 <small>ひじ</small> に、他の手の指文字「夕」の親指の先をつける。 【ma】女性が男性より上を表す。
「女」を上、「男」を下にすることによって「女性上位」を表している。指の形が上下逆になれば「亭主関白」になる。				

手話の同時性ということがよく言われる。田上隆司、F・C・パンは『手話をめぐって』^{xiv}の共同の序文の中で「手話の同時性」を手話が音声語よりすぐれた点であるとしている。

音声語と比較すると、音声語にない、「同時性」など優れた面を手話は持っている。(中略)今の音声語は、時間に制約され、音或いは語を二つ同時に発信することが不可能なのである。例えば、「男が女を殴る」という概念を日本語でいっても、英語でいっても、「殴る」と「女」という両単語を同時に発信することはできない

が、手話の場合、この二つの単語を同時に発信するのが普通である。もちろん、その必然性はないが、音声語にみられる時間による制約を、手話は克服することができるのである。

ここでは「男が女を殴る」という文について同時性を言っているが、「表 2」にあげたのは複合語合成のときの同時性である。両手で表現できるという利点を使えば、「30664 かかあ天下」では、この手話単語から上下の手を入れ替えると、「かかあ天下だったのに亭主関白に変わった。」という文になってしまう。

「両手異形の手話」では、手話の同時性を利用した複合語が多い。



4. 拘束形態素と自由形態素の結合

「10125 父」「10126 母」「10127 両親」「10128 祖

父」「10129 祖母」「10130 おじ(A)」「10131 おば(A)」「10132 親戚(C)」の第1動作は、「人差指をほおにあてて“顔が似ている”こと、つまり家族・親戚を表す」拘束形態素である。「家族」を表すか「親戚」を表すかは、結合する自由形態素によって変わる。単独で手話単語としては現れない。

表 3 拘束形態素 + 自由形態素 = 複合語

見出し語	手形	片手位置	イラスト	説明
10125 父 お父さん パパ	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、ほおから離して、親指を立ててあげる。 【ma】指文字「タ」(男)を上にし「年上の男」、顔の似ている年上の男で「父」を表す。
「家族を表す」拘束形態素と、「年上の男を表す」自由形態素の結合。				
10126 母 お母さん ママ	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、ほおから離して、小指を立ててあげる。 【ma】指文字「イ」(女)を上にし「年上の女」、顔の似ている年上の女で「母」を表す。
「家族を表す」拘束形態素と、「年上の女を表す」自由形態素の結合。				
10127 両親 親	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、ほおから離して指文字「ヤ」の形に変え、手首を軸に左右に2回ふる。指文字「ヤ」は少し高い位置におく。 【ma】顔の似ている年上の男(親指)と女(小指)で両親を表す。
「家族を表す」拘束形態素と、「年上の男女を表す」自由形態素の結合。				
10128 祖父 おじいさん (祖父)	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、親指を少し曲げて、2回上下に動かす。 【ma】親指を曲げて腰が曲がっていることを表す。顔の似ている年上の老人で「祖父」を表す。
「家族を表す」拘束形態素と、「年をとった男を表す」自由形態素の結合。				
10129 祖母 おばあさん (祖母)	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、その手を指文字「イ」にかえ、小指を少し曲げて、2回上下に動かす。 【ma】親指を曲げて歳をとっていることを表す。顔の似ている年上の老女で「祖母」を表す。
「家族を表す」拘束形態素と、「年をとった女を表す」自由形態素の結合。				
10130 おじ(A)	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、指文字「タ」を示し、指文字「セ」を上にあげる(下にさげる)。 【ma】指文字「タ」で「男」、上にあげるか下にさげるかで、年上か年下かを表す。
「親戚を表す」拘束形態素と、「兄(弟)を表す」自由形態素の結合。				

見出し語	手形	片手位置	イラスト	説明
10131 おば(A)	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、指文字「イ」を示し、その手を上にあげる(下にさげる)。 【ma】指文字「イ」で「女」、上にあげるか下にさげるかで年上か年下かを表す。
「親戚を表す」拘束形態素と、「(姉)妹を表す」自由形態素の結合。				
10132 親戚(C) 親類(C)	ヒ型 ヒ型 横	ほお		【ac】人差指の先でほおをなで、つぎに両手の指文字「ヤ」を手首を軸にふりながら左右に開く。 【ma】顔が似ている人びとだから親戚を表す。
「親戚を表す」拘束形態素と、「人びとを表す」自由形態素の結合。				

「10125 父」は

(a)「家族を表す」拘束形態素 + 「年上の男を表す」自由形態素の結合

と分析したが、

(b)「家族を表す」拘束形態素 + 「年上を表す」拘束形態素 + 「男を表す」自由形態素の結合

と分析することもできる。



日本語では、おじ・おばが父母の兄姉か弟妹かを区別しない。漢字で表記するときは、父母の兄姉か弟妹かを区別する中国語の影響で伯父・叔父・伯母・叔母を区別する。手話言語では、「10130おじ(A)」「10131おば(A)」に見られるように、単に「男」「女」

を示すことをせず、必ず上にあげるか下にさげるかして示す。(a)の分析よりも、(b)の分析の方が妥当性が高い。形態素をどのレベルで考えるかの問題である。

5. 自由形態素と拘束形態素の結合

「10108 反省」「10117 聞き流す」の第2動作は拘束形態素である。単独の手話単語としては現れない。しかし、この第2動作の拘束形態素は、他の単語を構成している例がないので、形態素と言えるかどうか検討の余地がある。

表 4 自由形態素 + 拘束形態素 = 複合語

見出し語	手形	片手位置	イラスト	説明
10108 反省	ヒ型	こめかみ		【ac】人差指の先でこめかみをさし、つぎにその手を指文字「ク」の形に変えて、弧を描きながら手のひらが上を向くようにして、小指側を腹にあてる。
「思う」と「自分の腹(心)に問う」しぐさの組み合わせ。				
10117 聞き流す	ヒ型	耳		【ac】まず人差指の先を耳にあて、つぎに他の手の人差指の先を他の耳にあて、その手を横へ動かす。 【ma】耳から入ったものが頭の中を通過して、そのまま出ていくようすを表す。
第1動作は「聞く」の手話だが、第2動作は他に見えない形である。				

6. 拘束形態素と拘束形態素の結合

拘束形態素どうして結合して単語をつくると考えられる例がある。「10142 易しい」の第1動作は

「10140 おかしい・不思議」と同じ動作であるが、意味がまったく違うので、拘束形態素である。第2動作は「30132 示す」と同じ動作であるが、意味がまったく違うので、拘束形態素である。

表 5 拘束形態素 + 拘束形態素 = 複合語

見出し語	手形	片手位置	イラスト	説明
10142 易しい 簡単 単純 容易な	ヒ型 ヒ型 甲	あご	 横から見たイラスト	【ac】人差指の先をあごにあて、つぎにその指先を他の手のひらの上にあてる。 【us】「両手異形の手話」でも検索できるようにしてある。

表 6 参考「10140 おかしい・不思議」「30132 示す」

見出し語	手形	片手位置 他の手の形	イラスト	説明
10140 おかしい 不思議	ヒ型	手に位置は あご		【ac】人差指の先であごをつつく。疑問の表情をする。(甲は前向きで、他の指は握っている。) 【ma】口の中に入っているものは何? というしぐさを表す。
30132 示す	人差指下	他の手の形 はテ型。		【ac】指先を前、手のひらを上にした手を示し、他の手の人差指の先を、その手のひらにつける。 【ma】手のひらの上にあるものを指し示すようすを表す。

7. 異形態

音素に異音があるように形態素にも異形態がある。倉又浩一の「形態論」^{xv}によれば、

ある特定の形態素は、すべて同じ形で現れるとは限らず、異なった環境では異なった形をとってあらわれることがよくある。このような交替形を異形態と呼ぶ。ある形態素にどのような異形態が現れるかは、いろいろな条件によって決まる。

また、『ラールス言語学用語辞典』^{xvi}によると

最小の表意単位を形態素の名で呼ぶ場合には、この形態素の文脈による変異体を <異形態> と呼ぶ。

「異なった環境」とか「文脈による」とかあるが、異形態として研究されているのは、小泉保の『教養のための言語学コース』^{xvii}によると、音韻的な環境による異形態である。

(a) 1本、 2本、 3本、 4本、 5本、
6本……

(b) 1台、 2台、 3台、 4台、 5台、
6台……

(a) /iQ-poN/ /ni-hon/ /saN-boN/ /yoN-hon/ …

(b) /iti-dai/ /ni-dai/ /saN-dai/ /yoN-dai/
...^{xviii}

倉又浩一の「形態論」では、英語の例があげられている。

英語の過去を示す形態素{ed}は、/-d, -t, -id / という異形態を持つが、そのいずれの形をとって現れるかは、これと結びつく形態素の最終音の性質という音韻的条件に依存し、しかもそれらは相補的分布をなす。

a) 最終音が / d / を除く有声音の場合は、
/-d / changed

b) 最終音が / t / を除く有声音の場合は、
/-t / talked

c) 最終音が / t / および / d / 場合は、
/-id / waited



音素の異音が相補的に分布するように、形態素の異形態も相補的に分布する。

手話単語にもこのような例があるだろうか。

同じ日本語ラベルの手話単語が(A)(B)(C).....などで区別されている例がある^{xix}。その中で、例えば「表」にあげた「かわいい(A)(B)(C)(D)(E)」、
「表」にあげた「いたわる(A)(B)(C)」などは異形態に該当する。

8 . 異形態「かわいい」

表 7 異形態「かわいい」

見出し語	手形	片手位置 両手の動き 他の手の形	イラスト	説明
10530 愛(C) 大切(C) かわいい(C)	テ型	片手の手話で、手の位置は標準。		【ac】指先を前、手のひらを下に向けた手を胸の前において、水平面にやや小さい円を描く。 【ma】愛しているものを大切になでまわしているしぐさを表す。
大切なものをなでまわす手だけが示される。対象（大切にするもの）が省略された形である。				
20592 愛(A) 大切(A) 大事(A) 重要(A) かわいい(A) 愛知(A)	テ型	両手同形の手話で、両手の動きはその場の動き。		【ac】手のひらで他の手の甲をなでまわす。両手は「x」印に交差する。 【ma】愛しているものを大切になでまわすしぐさを表す。
この手話は“大切になでまわす”ところがポイントで、下の手は握り拳でも手のひらが下を向く形でもよい。下の手で特定の対象を限定する必要がない場合に使う。				



見出し語	手形	片手位置 両手の動き 他の手の形	イラスト	説明
30508 愛(B) 大切(B) 大事(B) 重要(B) かわいい(B) 愛知(B)	テ型	両手異形の手話で、他の手の形はサ型。		【ac】手のひらで、指文字「サ」の他の手の甲をなでまわす。 【ma】愛しているものを大切になでまわしているしぐさを表す。
この手話は“大切になでまわす”ところがポイントで、下の手は握り拳でも手のひらが下を向く形でもよい。下の手で特定の対象を限定する必要がない場合に使う。				
30558 かわいい(D) 愛媛	テ型	両手異形の手話で、他の手の形はイ型。		【ac】甲を前にした指文字「イ」を、他の手のひらでなでまわす。 【ma】大切にかわいがるようすを表す。
小指なので女性のかわいいようすを表すのに使う。女性を“大切にする”もこの手話でよい。				
30561 かわいい(E) 愛知(C)	テ型	両手異形の手話で、他の手の形はタ型。		【ac】指文字「タ」の手を他の手のひらでなでる。 【ma】大切にかわいがるようすを表す。
指文字「タ」は、人間一般を表す場合と、男性を表す場合がある。男性を表す場合は、男性がかわいいようすを表すのに使う。				

「表」では、利き手の手型が「手のひらを下に向けた形」で、他の手の形が文脈に応じて変わってくる。「10530」は片手の手話で対象が省略された形である。「20592」と「30508」は対象を一般的な形で表している。「20592」と「30508」のどちらが実際の表現の中で選ばれるかは、前後のどんな手話があ

るかに影響されるが、英語の過去を示す形態素{ed}の発音のように、前の手話の形によって規則的に決まる訳ではない。個人的な癖か、前後の文脈による。「この形態素の文脈による変異体を<異形態>と呼ぶ」ことができるのであれば、「表」の手話単語は「異形態」と言えるであろう。

9. 異形態「いたわる」

表 8 異形態「いたわる」

見出し語	手形	片手位置 両手の動き 他の手の形	イラスト	説明
30679 いたわる(A) 自愛(A) 養生(A) 大切に(体を)(A)	ク型	両手異形の手話で、他の手の形は握り拳縦。		【ac】縦にした握り拳を胸にあて、指文字「ク」の手のひらで、胸にあてた握り拳をなでる。 【ma】「愛する」の手話を自分に向けて表す。体を大切にするという意味。
胸にあてる手は、指文字「ホ」、指文字「ク」、握り拳のどれでもよい。参照：「自愛(B)(C)」				
30706 いたわる(B) 自愛(B) 養生(B) 大切に(体を)(B)	ホ型	両手異形の手話で、他の手の形はホ型。		【ac】指文字「ホ」を胸にあて、指文字「ク」の他の手のひらで、胸にあてた手の甲をなでる。 【ma】「愛する」の手話を自分に向けて表す。体を大切にするという意味。
胸にあてる手は、指文字「ホ」、指文字「ク」、握り拳のどれでもよい。				
20771 いたわる(C) 自愛(C) 養生(C) 大切に(体を)(C)	ク型	両手同形の手話で、両手の動きはその場の動き。		【ac】手のひらを胸にあて、他の手のひらで、胸にあてた手の甲をなでる。 【ma】「愛する」の手話を自分に向けて表す。体を大切にするという意味。
胸にあてる手は、指文字「ホ」、指文字「ク」、握り拳のどれでもよい。参照：「自愛(A)(C)」				

「表」は利き手がホ型かク型か曖昧な形をしている。非利き手もク型、ホ型、握り拳縦のどれでもよい。どの手型を選ぶかは個人的な癖か、前後の文脈によると思われる。「20771 いたわる(C)」「30706 いたわる(B)」の場合は、第6章で考察した「相補的に分布する異音」と考えた方がよいかもしれない。

英語の過去を示す形態素 {ed} の発音のように、前の手話の形によって規則的に決まる訳ではないの

は「表」の場合と同じである。

本論考では、形態素の結合は、片手の手話では音声言語と同じように継時的な結合をし、両手異形の手話では手話の同時性を利用した同時的な結合をすることが分かった。

i 一般に「手話」と言ったときに、言語としての手話全体をさす場合と、個々の手話単語をさす場合がある。本論文では煩瑣になるのを避け、個々の手話単語を強く意識するとき「手話単語」、言語としての手話を強く意識するとき「手話言語」、一般の場合は「手話」と表記する。

ii 手話単語に意味と日本語の単語の意味にはずれがある。日本語の「あがる」は、手話では「(雨が)あがる」「(階段を)あがる」「(物価が)あがる」「(熱が)あがる」など、それぞれ別の手話で表現される。通常、手話につけられる日本語の説明は、その意味の一部しか表していないので、手話の「日本語ラベル」と言われる。

-
- iii Stokoe Casterline Croneberg *DICTIONARY AMERICAN SIGN LANGUAGE* Gallaudet College Press 1965
- iv 竹村茂『手話・日本語大辞典』廣濟堂出版、1999年5月1日。
- v 表音文字は、単音ごとに表記する単音文字と音節単位で表記する音節文字に分類できる。アルファベットは単音文字を代表し、日本の仮名文字は音節文字を代表する。
- vi 日本手話は、手や身体を使って空間に表される言語である、目で見て受け入れる言語であるという手話の特徴を最大限に生かして文法関係を組み立てて、日本語の文法や語彙とは別の独立した体系を持っている。
- vii 日本語を音声でなく手指で表そうとするのが日本語対应手話である。日本語の語彙と手話の語彙を一対一で対応させるのが原則なので、本研究の対象外とした。
- viii 日本語対应手話と日本手話の間にある手話というニュアンスで中間型手話と呼ばれる。語彙は、日本手話のものを使うことが多い。主に成人の聴覚障害者と手話を理解する聴者との間で使われている。口話と併用するが、手話だけになることもある。
- ix A・マルティネの「二重分節論」。A・マルティネ編『言語学事典』（大修館書店、1972年6月1日）の定義を引用（p.184）。この事典は大項目主義で編纂されており、問題の「二重分節論」は「ことば」の項にあり、この項の執筆者はムーナンである。
- x 伊藤克敏・牧内勝・本名信行『ことばと人間 - 新しい言語学への試み - 』三省堂、1986年4月20日。「第1章 ことばの構造（牧内勝）」（p.56）
- xi 田中春美・家村睦夫・五十嵐康男・倉又浩一・中村完・樋口時弘『言語学入門』大修館書店、1975年3月1日。「第3章 形態論（倉又浩一）」（p.62）
- xii 例：お菓子屋 undesirable
- xiii 電子化された辞書ならば、単純語に使われたイラストを複合語の説明のときに表示させればよいので、複合語も単純語と同じレベルで配列できるようになる。
- xiv 田上隆司・F.C.パン『手話をめぐって』文化評論出版、1976年9月1日。（p.5）
- xv 田中春美・家村睦夫・五十嵐康男・倉又浩一・中村完・樋口時弘『言語学入門』大修館書店、1975年3月1日。「第3章 形態論（倉又浩一）」（p.66）
- xvi J. デュボワ他著 伊藤晃他訳『ラールス言語学用語辞典』大修館書店、1985年8月1日。
- xvii 小泉保『教養のための言語学コース』大修館書店、1984年4月20日。（p.95）
- xviii 音素/Q/は促音「っ」を、音素/N/は撥音「ん」を表す。
- xix 同じで(A)(B)(C).....で区別されている手話単語でも、一般的な意味を表す「上がる(A)」、熱が上がることを表す「上がる(B)」、温度が上がることを表す「上がる(C)」、階段をのぼることを表す「上がる(D)」などは、たまたま日本語ラベルが同じになっただけで、手話単語としては別の単語である。